

日本人韓国語学習者のための類義語分析 — 「안 (an)」と「속 (sok)」—

李 澤 熊

キーワード：日韓対照、類義語、안 (an)、속 (sok)、中 (なか)

1.はじめに

日本語と韓国語は語順をはじめとする文法が非常によく似ているため、韓国語は日本人にとって学びやすい言葉であると言われている。しかし、(例えば) 助詞の使い分けなど、微妙に異なるところも多いため、注意が必要である。

このような現状を踏まえ、李 (2011a) では、いくつかの文法項目と語彙項目を取り上げ、対照言語学研究的観点から分析を行っている。例えば、日本語と韓国語には中国語起源の漢語系語彙が数多く含まれているということもあり、「日韓両言語の(漢語系を含む)語彙の意味の違い」などについて考察している。また、李 (2011b) では、<表 1>のように、「類義関係にある複数の語が韓国語の1語に対応する(または、その逆の)例」があることを指摘し、その中でいくつかのペアを取り上げ、各語の意味の類似点と相違点について明らかにしている。

<表 1>

韓国語	日本語
뒤	後ろ／裏
기분	気持ち／気分
전망	見通し／見込み／展望
여유	余裕／ゆとり
습관 / 버릇	習慣／癖／病みつき
여기 / 이곳	ここ
안 / 속	中 (なか)
물고기 / 생선	魚

本研究はその続きとして、「類義関係にある複数の韓国語の名詞が日本語の1語に対応する例」の中で、「안 (an)／속 (sok)」と「中 (なか)」を取り上げ、分析を行い、韓国語教育の現場で有効に活用できるような教材作りのための基礎資料の作成を目指していく。

さて、次の例 (1) (2) における「안(an)」と「속(sok)」は、日本語ではどちらも「中」に対応するが、逆に例 (3) (4) のように、「안(an)」と「속(sok)」のどちらとも対応しない場合もあるため、それぞれの違いを明確にする必要がある(注1)。

- (1) 버스 안에서 지갑을 떨어뜨렸다.
(バスの中で財布を落とした。)
- (2) 가방 속에는 손으로 들기 어려울 만큼 무거운 돈더미가 들어 있었다.
(カバンの中には手で持ちきれないほど重い札束が入っていた。)
- (3) 中 (*안(an) / *속(sok)) 三日の試合。
- (4) 中 (*안(an) / *속(sok)) の息子。

本稿では以上を踏まえ、まず「안(an)」と「속(sok)」を比較し、両語の意味の類似点と相違点を明らかにした上で、日本語の「中」との対応関係についても考察する。

2. 「안(an)」と「속(sok)」の意味分析

本章では、「안(an)」と「속(sok)」を比較し、両語の意味の類似点と相違点を明らかにする。「안(an)」と「속(sok)」は多様な意味を持つ語であるため、まずそれぞれの意味を確認した上で、両者の類似点と相違点を明らかにする。

2. 1. 「안(an)」の意味

2. 1. 1. 意味① : <あるものによって><仕切られた><空間的な範囲の><内側>

- (5) 공장 안에서는 사람들이 바빠 움직이고 있었다.
(工場の안(an)では人々が忙しく動いていた。)
- (6) 방 안에는 담배 연기가 가득하다.
(部屋の안(an)はタバコの煙でいっぱいだ。)
- (7) 차 안에서 졸다간 지나쳐 가기 쉽네.
(車の안(an)で居眠りなんかしたら乗り越えてしまいそう。)
- (8) 돈이 농 안에서 잠자고 있다.
(お金がたんすの안(an)に眠っている。)
- (9) 가방 안에 책을 챙겨 넣다.
(カバンの안(an)に本をそろえて入れる。)

以上の例はいずれも、何らかのものによって仕切られている「空間的な範囲」が問題となっていると考えられる。ここで「안(an)」が表すのは、その仕切られた空間の端の部分に基づき、そこから遠いところ（つまり、内側）であるととらえられる。

2. 1. 2. 意味② : <抽象的な事柄の><空間的な範囲としての><内側>

- (10) 두 사람은 영화 안에서도 본명과 같은 이름으로 나와 배역에 꼭 맞는 연기를 보여 준다.
(二人は映画の안(an)でも本名と同じ名前が登場し、役にぴったりの演技を見せてくれる。)
- (11) 이 세 가지 물음들이 이 소설 안에 존재한다.
(この三つの質問がこの小説の안(an)に存在する。)
- (12) 장편 소설 안에 이런 대화가 나와요.
(長編小説の안(an)にこんな対話が出てくる。)

意味②は、具体的な物理的空間が問題となっている意味①とは違い、抽象的な事柄が問題となっており、それを空間的な範囲としてとらえ、その内側を表していると考えられる。抽象的な事柄としては、「영화(映画)」「드라마(ドラマ)」「소설(小説)」「행동(行動)」「마음(心)」など、様々なものがあげられる。

2. 1. 3. 意味③ : <ある物事について><一定の基準・境界・限界><を超えない><範囲>

- (13) 일을 내일 안으로 마치세요.
(仕事を明日の안(an)にすませてください。)
- (14) 손님들은 백선안으로 들어서기 바랍니다.
(お客様は白線の안(an)におさがりくださいますようお願いいたします。)
- (15) 적은 사정거리 안에 있다.
(敵は射程距離の안(an)にいる。)
- (16) 자유권이란 국민이 일정한 범위 안에서 국가의 간섭을 받지 아니할 권리이다.
(自由権とは国民が一定の範囲の안(an)で国家の干渉を受けない権利である。)
- (17) 숙박은 10 만원 안에서 해결하다.
(宿泊は10万ウォンの안(an)で解決する。)

まず、例(13)は時間的な範囲が問題となっており、「明日」という時間的基準点が設定され、それを超えないことを表している。また、例(14)～(17)は「白線」のような一定の境界線や、「10万ウォン」のような「限界点」が設定されており、それを超えないことを表していると考えられる。

2. 1. 4. 意味④ : <ある組織や団体の><範囲に含まれる><部分>

- (18) 클래스 안에서 공부를 제일 잘 한다.
(クラスの안(an)で勉強が一番できる。)
- (19) 세계 톱 100 대학교 안에 우리대학이 뽑혔다.
(世界のトップ100大学の안(an)に、うちの大学が選ばれた。)
- (20) 앙케이트 조사에서, 기업의 70% 이상이 회사 안에 블랙리스트 직원이 있다고 대답했다.
(アンケート調査で、企業の70%以上が会社の안(an)にブラックリスト職員がいると答えた。)

以上の例では、「組織」や「団体」などが想定され、問題となっている事柄がその範囲に含まれることを表している。例えば、例(18)は(学校の)クラスが想定され、問題となっている学生は、当該のクラスの範囲で考えた場合、勉強が一番できるというようにとらえることができる。例(19)も世界のトップ100大学という「組織(カテゴリー)」が想定され、問題となっている「うちの大学」もその範囲に含まれるということを表している。

2. 1. 5. 意味⑤ : <服や布団などの内側にあてるもの (= (服の)裏地) >

- (21) 치마에 안은 대다.
(スカートに안(an)をつける。)
- (22) 모피로 안을 대어 지은 옷.
(毛皮で안(an)をつけて作った服。)

以上の例のように、「服や布団などの内側にあてるもの」、つまり「裏地」の意味で用いられる場合がある。「안짱 (anjjip)」の縮約形であるとされている。

2. 1. 6. 意味⑥ : <妻>

- (23) 제 안한테서 들은 얘기입니다.
(私の안(an)から聞いた話です。)
- (24) 변변치 않지만 제 안이 차린 음식입니다.
(お粗末ですが、안(an)が用意した料理です。)

以上の例のように、「妻」の意味で用いられる場合がある。一般的に、自分の妻をへりくだって言う場合に使われる。

2. 1. 7. 意味⑦ : <女性>

- (25) 안 사돈. (안(an) 相やけ (= 婿または嫁の母親))
- (26) 안 주인. (안(an) 主人 (= 奥さん))

以上の例のように、「女性」の意味で用いられる場合がある。多く、接頭辞の形で用いられる。

2. 2. 「속 (sok)」の意味

2. 2. 1. 意味① : <一定の形で囲まれている事物の><中心方向の部分・中身>

- (27) 그는 여행 가방 속에 갈아입을 속내의 두 벌과 일기장을 넣었다.
(彼は旅行カバン속(sok)に着替え用の下着2枚と日記帳を入れた。)
- (28) 어머니의 낡은 상자 속에는 예전에 아버지가 보냈던 연애편지가 고이 간직되어 있다.
(お母さんの古い箱속(sok)には以前お父さんが送った恋文が大事に保管されている。)
- (29) 골프 경기에서 어려운 부분 중 하나는 벙커 속의 골프공을 걷어올리는 것이다.
(ゴルフ競技で難しいところの一つはバンカー속(sok)のボールを拾い上げることである。)
- (30) 식탁 위의 병들 속에는 갖가지 종류의 차나 설탕이 들어 있는 것 같았다.
(食卓の上の瓶속(sok)にはいろんな種類のお茶や砂糖が入っているようだった。)

- (31) 빨갱게 익은 수박 속 같다.
(真っ赤に熟したスイカの속 (sok)のようだ。)
- (32) 빵은 좀 딱딱해서 속만 파 먹어요.
(パンは少しかたくて、속 (sok)だけほじって食べます。)

以上の例から分かるように、問題となっている事物は一定の形で囲まれているものでなければならない。例 (27) (28) の「カバン」や「箱」のように、すべての面が密閉された形で、空間をなすものの場合もあれば、例 (29) の「バンカー」のように、すべての面が密閉されていないでもいい。ただし、一定の形で囲まれている事物の「中心方向の部分」というものが想定されなければ用いられにくい(詳しくは後述)。さらに、例(31) (32) のように、一定の形で囲まれている事物の「中心方向の部分」というのが「中身」を指す場合もある。

2. 2. 2. 意味② : <抽象的な事柄の><中心方向の部分・中身>

- (33) 우리나라와 관련된 서양 고지도의 종류와 그 속에 나타난 한국의 모습에 대해서 살펴보자.
(我が国と関連した西洋の古地図の種類とその속 (sok)に現れた韓国の姿について見てみよう。)
- (34) 이 소설 속에는 작가의 젊은 시절의 꿈과 절망과 사랑이 스며 있었다.
(この小説の속 (sok)には作家の若い頃の夢と絶望と愛が隠されていた。)
- (35) 무의식적인 행동 속에 진실이 숨어있다.
(無意識的な行動の속 (sok)に真実が隠れている。)

意味②は、具体的な事物が問題となっている意味①とは違い、抽象的な事柄が問題となっており、その事柄の中心方向の部分、あるいは中身としてとらえることができる場合に用いられる。안(an)の意味②と同様に、様々な抽象的な事柄について用いられる。

2. 2. 3. 意味③ : <ある状態や現象の><最中>

- (36) 건강에 대한 높은 관심 속에 건강식품 제조기가 인기를 끌고 있다.
(健康に対する高い関心の속 (sok)に健康食品の製造器が人気を集めている。)
- (37) 그 소녀는 가난 속에서도 웃음을 잃지 않았다.
(その少女は貧しさの속 (sok)でも笑顔を失わなかった。)

- (38) 비바람 속에 피어난 꽃.
 (風雨の속(sok)で咲いた花。)
- (39) 그녀는 교문을 뛰어나오는 아이들 속에서 그의 아들을 찾았다.
 (彼女は校門を飛び出してくる子供達の속(sok)で彼の息子を搜した。)
- (40) 태현이는 일행 속에서 웃고 있는 여자아이를 발견했다.
 (테honは一行の속(sok)で笑っている女の子を見つけた。)

以上の例では、ある状態や現象が問題となっている。例えば、例(36)は健康に対して関心が高いという、今の社会現象が問題となっていると言える。また、例(38)では、少女が直面している状況(つまり、貧しい状況)が問題となっていることが分かる。

ここで「속(sok)」が表しているのは、その状態や現象が続いている「最中」であるにとらえることができる。

2. 2. 4. 意味④ : <表面から隠れた事柄の><内幕・事情>

- (41) 화려해 보이지만, 속을 들여다 보면 힘들고 괴로운 일이 많다.
 (華麗に見えるが、속(sok)を覗いてみると大変で辛いことが多い。)
- (42) 현 사태의 속을 알 수가 없다.
 (現事態の속(sok)を知ることができない。)
- (43) 그 사건은 아직까지는 속이 드러나지 않았다.
 (その事件は未だ속(sok)が現れていない。)

以上の例から分かるように、問題となっている事柄は表面から隠れていて、その内幕・事情が把握できないことを表している。例えば、例(41)は「問題となっている事柄は表面上は華麗に見えるが、外からは隠れて見えない実情は違っていて、大変で辛い」というように解釈することができる。例(43)も「その事件の本当のところ(つまり、内幕)は表に現れていない」ということになる。

2. 2. 5. 意味⑤ : <胸に抱いている><考え・気持ち>

- (44) 속을 털어놓다.
 (속(sok)を打ち明ける。)
- (45) 하고싶은 말을 하고나니, 속이 후련하다.
 (言いたいことを言ったら、속(sok)がすっきりした。)

(46) 겉으로는 웃고 있지만 속으로는 울고있는 자영업자가 있다.

(表では笑っているが、속 (sok) では泣いている自営業者がいる。)

以上の例における「속 (sok)」は、人間主体が自分の胸に抱いている「考え」や「気持ち」を表していると考えられる。例えば、例 (44) は主体の考えや気持ちを打ち明けるといように解釈することができる。

2. 2. 6. 意味⑥ : <人や事物に対する><姿勢・態度>

(47) 속이 넓다 (좁다) .

(속 (sok) が広い (狭い)。)

(48) 저 아이는 생각보다 속이 깊다.

(あの子は思ったより 속 (sok) が深い。)

以上の例から分かるように、意味⑥は意味⑤と似ているが、人や事物に対する配慮や思いやりといった「姿勢・態度」を表している。

2. 2. 7. 意味⑦ : <人の身体における><お腹・胃腸>

(49) 아이는 속이 안 좋았는지 점심에 먹은 걸 고스란히 토해 냈다.

(子供は속 (sok) が良くなかったのか、お昼に食べたものを全部吐き出した。)

(50) 며칠째 속이 좋지 않아 병원을 찾았던 그녀는 자신이 췌장암에 걸렸다는 사실을 알고 충격에 휩싸였다.

(何日も 속 (sok) が良くなって病院に行った彼女は、すい臓癌であることを知り、ショックを受けた。)

(51) 술을 많이 먹어서 속이 쓰리다고 하자 아내는 따뜻한 물에 꿀을 타서 주었다.

(お酒を飲み過ぎて、속 (sok) が痛いと言うと、家内はお湯に蜂蜜を入れてくれた。)

上の例における「속 (sok)」は、人の身体における「お腹・胃腸」を表している。つまり、例 (49) (50) では「お腹」を表しており、例 (51) では「胃腸」を表していると考えられる。

以上、「안 (an)」と「속 (sok)」の様々な意味用法について考察を行った。以下では、以上を踏まえ、両語の類似点と相違点について分析する。

2. 3. 類似点

ここではまず、両語がそれぞれどのような意味で用いられる場合に類義関係にあるかを考察する。

以下の例では、「안(an)」を「속(sok)」に置き換えることができ、文の持つ意味もほとんど変わらない。

(52) 가방 안 (속) 에 책을 챙겨 넣다.

(カバンの안(an) (속(sok)) に本をそろえて入れる。) (例(9)の再掲)

(53) 만원 지하철 안 (속) 에서 사람들에게 지지놀리다.

(満員の地下鉄の안(an) (속(sok)) でぎゅうぎゅう詰めになる。)

(54) 입 안 (속) 이 얼얼하다.

(口の안(an) (속(sok)) がぴりぴりする。)

以上の例における「안(an)」の意味は、<あるものによって><仕切られた><空間的な範囲の><内側>というようにとらえることができる。つまり、「안(an)」は意味①で用いられる場合、「속(sok)」と類義関係にあることが分かる。

続いて、次の例を見てみよう。

(55) 실제 그 모습 그대로, 그는 영화 안 (속) 에서도 프로의 모습을 여실 없이 보여주고 있다.

(実際その姿通り、彼は映画の안(an) (속(sok)) でもプロの姿を如実なしに見せてくれている。)

(56) 장편 소설 안 (속) 에 이런 대화가 나와요.

(長編小説の안(an) (속(sok)) にこんな対話が出てくる。) (例(12)の再掲)

以上の例においても、「안(an)」を「속(sok)」に置き換えることができ、また、この場合の「안(an)」は<抽象的な事柄の><空間的な範囲としての><内側>というように記述することができる。このことから、「안(an)」が意味②で用いられる場合にも「속(sok)」と類義関係にあると言える。

今度は逆に、「속(sok)」を「안(an)」で言い換えられる例を見てみよう。

(57) 가방 속 (안) 에는 손으로 들기 어려울 만큼 무거운 돈더미가 들어 있었다.

(カバンの속(sok) (안(an)) には手で持ちきれないほど重い札束が入っていた。)

(例(2)の再掲)

(58) 사과를 먹다가 사과속 (안) 에 벌레가 있을 때 ..

(リンゴを食べていて、リンゴの속 (sok) (안 (an)) に虫がいる時…)

以上の例における「속 (sok)」の意味は、＜一定の形で囲まれている事物の＞＜中心方向の部分・中身＞というようにとらえることができる。つまり、「속 (sok)」は意味①で用いられる場合、「안 (an)」と類義関係にあることが分かる。

さらに、以下の例を見てみよう。

(59) 주로 공포 영화 속 (안) 에 나오는 주인공들이 그의 이상형이다.

(主にホラー映画の속 (sok) (안 (an)) に出てくる主人公達が彼の理想のタイプである。)

(60) 한국 역사 소설 속 (안) 에 등장하는 가장 한국적인 인물 2 명이 있다.

(韓国歴史小説の속 (sok) (안 (an)) に登場する最も韓国的な人物 2 人がいる。)

以上の例における「속 (sok)」の意味は、＜抽象的な事柄の＞＜中心方向の部分・中身＞というようにとらえることができる。つまり、「속 (sok)」は意味②で用いられる場合も、「안 (an)」と類義関係にあると言える。

2. 4. 相違点

前節では、「안 (an)」と「속 (sok)」がそれぞれどのような意味で用いられる場合に類義関係にあるかを確認した。以下の例では、両語が類義関係にある場合、どのような違いがあるかについて考察していく。

まず、「안 (an)」を「속 (sok)」に置き換えると、非文か不自然になる文について見てみよう。

(61) 애들을 집 안 (?? 속) 으로 불러들이다.

(子供たちを家の안 (an) (?? 속 (sok)) に呼び入れる。)

(62) 건물 안 (?? 속) 에서 일하다.

(建物の안 (an) (?? 속 (sok)) で仕事をする。)

(63) 비둘기가 손 안 (*속) 에서 푸들거린다.

(ハトが手の안 (an) (*속 (sok)) で体を震わせている。)

(64) 주차장 안 (*속) 에 있는 차의 대수를 세어 보세요.

(駐車場の안 (an) (*속 (sok)) にある車の台数を数えてみてください。)

以上の例は、<あるものによって><仕切られた><空間的な範囲の><内側>というように解釈することができ、「안(an)」が用いられている。このように、「안(an)」が用いられるためには、「空間としてとらえられる範囲」というものが想定される必要がある。つまり、例(63)(64)が問題なく用いられるのは「手」「駐車場」というものを「空間的な範囲」としてとらえられるからであると考えられる。

以上の例において、「속(sok)」が用いられない(あるいは、不自然になる)理由は、「속(sok)」の場合は、一定の形で囲まれている事物の「中心方向の部分(あるいは、中身)」が問題になるからである。例えば、例(61)は、文の状況から分かるように「家」という何らかのものによって仕切られた端の部分の部分を基準に、そこから遠いところ(つまり、内側)というように、「空間的な範囲」というものが問題になっており、「中心方向の部分(あるいは、中身)」というものに注目することが難しい。他の例(63)(64)なども「空間的な範囲」として考えられており、「中心方向の部分(あるいは、中身)」に注目するというようにはとらえにくい。

今度は、逆に「속(sok)」を「안(an)」に置き換えると、不自然になる文について見てみよう。

(65) 도토리의 속(??안) 을 먹고 자란 곤충의 애벌레는 어미새가 둥지로 들어가서 새끼새의 먹이가 되기도 한다.

(どんぐりの속(sok) (??안(an)) を食べて育った昆虫の幼虫は、親鳥によって巣に運ばれ、幼鳥の餌になったりする。)

(66) 어린 애벌레가 풀줄기속 (??안) 을 먹고 자라다가 나무로 옮겨가...

(幼い幼虫が草の茎の속(sok) (??안(an)) を食べて育った後、木に移って…)

(67) 대부분의 분들은 사과속 (??안) 만 먹기마련인데요...

(ほとんどの方はリンゴの속(sok) (??안(an)) だけ食べるんですが…)

以上の例は、<一定の形で囲まれている事物の><中心方向の部分・中身>というように解釈することができ、「속(sok)」が用いられている。このように、「속(sok)」が用いられるためには、一定の形で囲まれている事物の「中心方向の部分(あるいは、中身)」というものが想定される必要がある。つまり、以上の例において「속(sok)」が問題なく用いられるのは、文の状況からも分かるように、「どんぐり」「草の茎」「リンゴ」という事物の「中心方向の部分(あるいは、中身)」が問題となっているからである。

一方、以上の例において「안(an)」が用いられにくい理由は、上でも述べたように、「안(an)」の場合は、「空間としてとらえられる範囲」というものが想定される必要があるが、ここではそのような解釈が難しいからである。

さらに、以下の例を見てみよう。

- (68) 뒤틀러버린 마음 속 (*안) 을 이해하려는 건 굉장히 어렵다.
(ひねくれた心の속 (sok) (*안 (an)) を理解するのは非常に難しい。)
- (69) 자기의 마음 속 (*안) 을 알아주는 사람.
(自分の心の속 (sok) (*안 (an)) を分かってくれる人。)

以上の例は、＜抽象的な事柄の＞＜中心方向の部分・中身＞というように解釈することができ、「속 (sok)」が用いられている。このように、「속 (sok)」が意味②で用いられる場合も、「中心方向の部分 (あるいは、中身)」というものが想定される必要がある。

以上の例は、どちらも「心」が問題となっているが、文の状況から分かるように、「理解する」「分かる」対象となるのは、心の「中身」となる。この場合、「안 (an)」を用いると不自然になるのは、ここの文脈からは、「空間としてとらえられる範囲」というものを想定することが難しいからであると考えられる。

それでは、ここで「안 (an)」と「속 (sok)」が両方用いられる例を見てみよう。

- (70) 달빛이 차차 방 안 (속) 까지 환하게 비쳐 들었다.
(月光が次第に部屋の안 (an) (속 (sok)) にまで明るく射し込んだ。)
- (71) 두 사람은 영화 안 (속) 에서도 본명과 같은 이름으로 나와 배역에 꼭 맞는 연기를 보여준다.
(二人は映画の안 (an) (속 (sok)) でも本名と同じ名前でも登場し、役にぴったりの演技を見せてくれる。)(例 (10) の再掲)

以上の例において、「안 (an)」と「속 (sok)」のどちらを用いても文の持つ意味はほとんど変わらない。

ただし、「안 (an)」を用いた場合は、上でも述べたように、「部屋」「映画」というものが「空間的な範囲」としてとらえられ、その空間の端の部分をもとに、そこから遠いところ (つまり、空間における内側) というように解釈される。

それに対して、「속 (sok)」を用いた場合は、「中心方向の部分・中身」というのが想定されるため、「部屋の奥の部分まで」「映画の内容」というようなとらえ方になる。

3. 「안 (an)」／「속 (sok)」と「中」の対応関係について

本章では、ここまでの考察を踏まえて、「안 (an)」／「속 (sok)」と「中」がそれぞれどのような対応関係にあるかについて考察する。

3. 1. 「안(an)」と「中」

以下に示すように、「안(an)」の意味①～意味④では、「中」も問題なく用いられることから、同じような意味用法を持っていると言える。ただし、意味③については、制約があり、「時間的な基準点」を表す場合は置き換えが難しいことが分かる。

意味①：＜あるものによって＞＜仕切られた＞＜空間的な範囲の＞＜内側＞

(72) 공장 안에서는 사람들이 바빠 움직이고 있었다.

(工場の中では人々が忙しく動いていた。)(例(5)の再掲)

意味②：＜抽象的な事柄の＞＜空間的な範囲としての＞＜内側＞

(73) 장편 소설 안에 이런 대화가 나와요.

(長編小説の中にこんな対話が出てくる。)(例(12)の再掲)

意味③：＜ある物事について＞＜一定の基準・境界・限界＞＜を超えない＞＜範囲＞

(74) 일을 내일 안으로 마치세요.

(仕事を明日の*中_中にすませてください。)(例(13)の再掲)

(75) 적은 사정거리 안에 있다.

(敵は射程距離の中_中にいる。)(例(15)の再掲)

(76) 숙박은 10 만원 안에서 해결하다.

(宿泊は10万ウォンの中_中で解決する。)(例(17)の再掲)

意味④：＜ある組織や団体の＞＜範囲に含まれる＞＜部分＞

(77) 클래스 안에서 공부를 제일 잘 한다.

(クラスの中_中で勉強が一番できる。)(例(18)の再掲)

一方、「안(an)」が意味⑤～意味⑦で用いられる場合は、「中」に置き換えることができないことから、「中」にはこのような意味用法を持たないと言える。

意味⑤：＜服や布団などの内側にあてるもの(＝(服の)裏地)＞

(78) 모피로 안을 대어 지은 옷.

(毛皮で*中_中をつけて作った服。)(例(22)の再掲)

意味⑥：＜妻＞

(79) 제 안한테서 들은 얘기입니다.

(私の*中_中から聞いた話です。)(例(23)の再掲)

意味⑦：＜女性＞

(80) 안 주인. (*中_中の主人(＝奥さん))(例(26)の再掲)

3. 2. 「속(sok)」と「中」

以下に示すように、「속(sok)」の意味①～意味④では、「中」も問題なく用いられることから、同じような意味用法を持っていると言える(注2)。

意味①：＜一定の形で囲まれている事物の＞＜中心方向の部分・中身＞

(81) 그는 여행 가방 속에 갈아 입을 속내의 두 벌과 일기장을 넣었다.

(彼は旅行カバンの中に着替え用の下着2枚と日記帳を入れた。)(例(27)の再掲)

(82) 빵은 좀 딱딱해서 속만 파 먹어요.

(パンは少しかたくて、中だけほじって食べます。)(例(32)の再掲)

意味②：＜抽象的な事柄の＞＜中心方向の部分・中身＞

(83) 무의식적인 행동 속에 진실이 숨어있다.

(無意識的な行動の中に真実が隠れている。)(例(35)の再掲)

意味③：＜ある状態や現象の＞＜最中＞

(84) 건강에 대한 높은 관심 속에 건강식품 제조기가 인기를 끌고 있다.

(健康に対する高い関心の中に健康食品の製造器が人気を集めている。)(例(36)の再掲)

(85) 그 소녀는 가난 속에서도 웃음을 잃지 않았다.

(その少女は貧しさの中でも笑顔を失わなかった。)(例(37)の再掲)

意味④：＜表面から隠れた事柄の＞＜内幕・事情＞

(86) 화려해 보이지만, 속을 들여다 보면 힘들고 괴로운 일이 많다.

(華麗に見えるが、中を覗いてみると大変で辛いことが多い。)(例(41)の再掲)

(87) 현 사태의 속을 알 수가 없다.

(現事態の中を知ることができない。)(例(42)の再掲)

一方、「속(sok)」が意味⑤～意味⑦で用いられる場合は、「中」に置き換えることができないことから、「中」にはこのような意味用法を持たないと考えられる。

意味⑤：＜胸に抱いている＞＜考え・気持ち＞

(88) 속을 털어놓다.

(*中を打ち明ける。)(例(44)の再掲)

(89) 하고 싶은 말을 하고나니, 속이 후련하다.

(言いたいことを言ったら、*中がすっきりした。)(例(45)の再掲)

意味⑥：＜人や事物に対する＞＜姿勢・態度＞

(90) 속이 넓다 (좁다).

(*中が広い(狭い。)) (例(47)の再掲)

意味⑦: <人の身体における><お腹・胃腸>

(91) 아이는 속이 안 좋았는지 점심에 먹은 걸 고스란히 토해 냈다.

(子供は*中が良くなかったのか、お昼に食べたものを全部吐き出した。)(例(49)の再掲)

3. 3. 「안(an)」／「속(sok)」と対応しない「中」

以下に示すように、「中」は、「안(an)」と「속(sok)」のどちらとも対応しない意味を少なくとも3つ持っていることが分かる。つまり、「안(an)」と「속(sok)」には次のような意味用法を持たない。

意味①: <前後・左右・上下など><二つの物事のあいだ>

(92) 壁と壁の中(*안(an)) / *속(sok)。

(93) 中(*안(an)) / *속(sok) 四日で登板する。

意味②: <段階・等級などにおける><中間的な値・平均値>

(94) 中(*안(an)) / *속(sok) ほどのものを見せてください。

(95) 中(*안(an)) / *속(sok) の品。

(96) 測定値の中(*안(an)) / *속(sok) を取る。

意味③: <兄弟で、一番上でも一番下でもないもの>

(97) 中(*안(an)) / *속(sok) の息子

4. まとめ

以上、本稿では、「類義関係にある複数の韓国語の名詞が日本語の1語に対応する例」の中で、「안(an)／속(sok)」と「中(なか)」を取り上げ、分析を行った。

まず、「안(an)」と「속(sok)」を比較し、両語の意味の類似点と相違点を明らかにした。また、「안(an)／속(sok)」と「中」がそれぞれどのような対応関係にあるかについても詳しく述べた。

今後、他のペアについてもさらに考察を進めていき、韓国語教育の現場で有効に活用できるような土台作りを目指したい。

注

注1 韓国語の「안(an)」と「속(sok)」に対応する語は、「中(なか)」の他に、「奥(おく)」

もあるが、ここでは「안(an)／속(sok)」と「中(なか)」の違いを中心に考察する。

注2 ただし、「속(sok)」の意味③と「中」は以下に示すように、使い方に若干ずれがある。

つまり、「속 (sok)」は名詞としか結びつかないが、「中」は動詞とも結びつく。

- ① a. 暴風の中を歩く。 b. 폭풍 속을 걷다.
② a. 雨が降る中を歩く。 b. *비가 내리는 속을 걷다.

参考文献

- 李澤熊 (2011a) 「日本人韓国語学習者のための日韓対照言語研究」『語研紀要』第36巻第1号, pp.171-190, 愛知学院大学.
李澤熊 (2011b) 「韓国人日本語学習者のための類義語分析—名詞を中心に—」『言語文化論集』第33巻1号, pp.3-16, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科.
大野晋・浜西正人 (1981) 『類語新辞典』, 角川書店.
金田一京助・山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄 (編) (1997) 『新明解国語辞典』第5版, 三省堂.
朱信源 (編) (2005) 『標準韓国語辞典』, 白帝社.
新村出 (編) (1998) 『広辞苑』第5版, 岩波書店.
田忠魁・泉原省二・金相順 (編) (1998) 『日本語類似表現のニュアンスの違いを例証する類義語使い分け辞典』, 研究社出版.
松村明 (編) (1995) 『大辞林』, 三省堂.
民衆書林編集局 (編) (1998) 『日韓・韓日辞典』, 民衆書林.
民衆書林編集局 (編) (2003) 『NEW ポータブル日韓辞典』, 三修社.
森田良行 (1995) 『日本語の視点』, 創拓社.
安田吉実・箕輪吉次・孫洛範・李淑子 (編) (2006) 『韓日辞典』, 民衆書林.

例文出典

- (1) 21 세기 세종계획 (<http://sejong.or.kr/>)
(2) 日本語用例検索 (<http://www.tokuteicorpus.jp/team/jpling/kwic/>)
(3) KOTONHA 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」検索デモンストラーション (<http://www.kotonoha.gr.jp/demo/>)